

計画見直しの根拠・趣旨

計画の性格と役割

近年の環境を取り巻く現状

本県の現状と課題

第2章 目指すべき将来の姿

「めぐみ豊かな環境といのちへの共感を育む社会の実現」
～子や孫の世代まで幸せや豊かさを実感できる安全で安心な環境の実現

第3章 基本目標

【計画の3つの基本目標】

I 環境の未来を拓く「人」「地域」の創造

～主体性をもった人育ち・人育てを進め、その先の社会づくりにつなげます。
～環境保全の視点が社会・経済活動に織り込まれた地域社会をつくります。

II 琵琶湖環境の再生と継承

～活力ある営みの中で、琵琶湖の健全性を確保し、琵琶湖と人が共生する社会を次世代に継承します。
～生きものにぎわいとつながりのある豊かな社会をつくります。

III 環境への負荷が少ない安全で快適な社会の構築

～生活の豊かさを実感できる低炭素社会・省エネルギーの社会への転換を進めます。
～環境リスクの低減による安全・安心な社会をつくります。
～廃棄物の排出抑制や再使用に重点をおく3R取組のステップアップにより持続可能な社会づくりを進めます。

第4章 環境施策の展開

I 環境の未来を拓く「人」・「地域」の創造

- ◆環境学習・教育の推進～実践・行動できる人づくり、その先の社会づくりへ
◆環境と調和した産業・まちづくりへの転換

II 琵琶湖環境の再生と継承

- ◆琵琶湖流域の総合保全～マザーレイク21計画(第2期計画)の推進
◆水・土壌の環境保全対策の推進
◆琵琶湖の健全な生態系の保全・回復

III 環境負荷の少ない安全で快適な生活環境の構築

- ◆地球温暖化対策の推進策の推進
◆再生可能エネルギーの導入促進
◆大気環境保全対策等の推進

第5章 複雑化・多様化する環境問題に対応するために～重点的に取り組む課題

環境問題は複雑化・多様化

環境問題は時間を超える

環境問題は空間を超える

1つの視点だけでの原因解析、対策

①関係する多くの課題の全体像を俯瞰し、関係する各課が課題を共有して、研究を含め課題の解決に向けて、課題の把握、調査研究、対策の立案に至る環境の保全スキームが必要。

②複雑化・多様化した環境問題の解決に向け、県民一人ひとりが、環境問題がさまざまな「つながり」の中で存在していること意識した実践学習が必要。

「仮」環境課題総合・統合的検討システム
「仮」「実践」「つながり」指向型環境学習

第6章 計画の推進

【行動視点】

- 視点1: はじめる 「いつか」「だれか」ではなく、「いま」「私」が行動する
視点2: つなげる 多様な主体とのつながりを活用した取組を進める
視点3: おもいやる 琵琶湖・淀川流域をはじめとする広域的な連携・協力を進める
視点4: ひろめる 地球規模で考え、地域から実践し、世界に発信する

【計画の円滑な推進】

- 1 点検と評価
・分野別計画による進捗状況の把握
・県政世論調査
2 滋賀県庁環境マネジメントシステム